

令和2年度 iJAMP「市議会最前線」掲載記事一覧

掲載月	市議会	タイトル	頁
令和2年			
8月	札幌市議会（北海道）	デジタルサイネージで積極広報	P2
9月	八戸市議会（青森県）	未来の市政発展を目指す議員連盟	P3
10月	長岡市議会（新潟県）	ホノルル市議会との平和交流	P4
11月	桐生市議会（群馬県）	議会一丸となって市長へ当初予算要望	P5
12月	大垣市議会（岐阜県）	議場をユニバーサルデザインに	P6
令和3年			
1月	向日市議会（京都府）	開かれた議会を目指して	P7
2月	福山市議会（広島県）	すべての市民により開かれた市議会を	P8
3月	西条市議会（愛媛県）	議会の活性化を目指して	P9

【市議会最前線】◎デジタルサイネージで積極広報＝札幌市議会

20/08/31 08:00 NG19

札幌市議会は2016年度、議会基本条例にある「市民に開かれた議会の実現のため、多様な情報発信手段を用いて、積極的な広報を行う」との規定を具現化するため、「デジタルサイネージ」を利用した広報を展開していくことを決めました。

「デジタルサイネージ」とは簡単に言うと「電子看板」のことで、画面を通信ネットワークで結び、時間と場所を特定してきめ細かな情報発信をすることが可能です。

実際にデジタルサイネージ広報がスタートしたのは16年11月です。市議会定例会の日程や、傍聴、議会中継の案内を内容とする動画と静止画をそれぞれ15秒版と30秒版の2種類製作。年に4回、定例会開会日の月の初めから閉会日まで、札幌駅の地下歩行空間など市内計86カ所で放映しています。

議会のインターネット中継のアクセス数は、デジタルサイネージ広報と、同時期に開始したスマートフォン対応の相乗効果で大きく伸びました。一方、傍聴者数は減少しましたが、これは議場に直接足を運ばなくても議会の状況を目にすることができる環境が整ったからだと考えています。本市では今後も市民に開かれた議会を目指し、効果的な広報に取り組んでいくつもりです。（了）



札幌市議会からのお知らせ

見て視て!市議会

令和2年 第2回定例会

日程(予定) 13時開始予定

5月28日 木	招集日 市長提案説明など
6月3日 水	代表質問
4日 木	
6月10日 水	最終日

本会議は市役所本庁舎18階で傍聴することができます。

パソコンやスマートフォンでも議会中継をご覧になれます。

詳しくはホームページ、または札幌市議会事務局まで ☎ 211-3164 [札幌市議会](#) [戻る](#)

※本印刷物は時事通信社 iJAMPサービスから印刷されました。

Copyright JJI PRESS Ltd. All Rights Reserved.

【市議会最前線】◎ 未来の市政発展を目指す議員連盟 = 八戸市議会

20/09/30 08:00 NG022

八戸市議会では、市政の発展や地域の活性化に寄与することを目的に超党派の有志議員による議員連盟を設立し、全議員が全ての議連に参画して活動しています。

・国立研究開発法人海洋研究開発機構研究成果活用促進八戸市議会議員連盟

・県立八戸芸術パーク・屋内スケート場早期建設・運営促進八戸市議会議員連盟

・八戸圏域連携中枢都市圏形成促進議員連盟

・エネルギー研究開発促進八戸市議会議員連盟

今回は、以上四つの議員連盟の中で特徴ある二つの議員連盟の活動をご紹介します。

一つ目として、「海から拓けたまち 八戸」として平成18年から国立研究開発法人海洋研究開発機構（JAMSTEC）研究成果活用促進八戸市議会議員連盟を設立し、地球深部探査船「ちきゅう」や有人潜水調査船「しんかい6500」などの八戸港寄港や、八戸市水産科学館への「ちきゅう」情報館設置などの要望活動並びにJAMSTECの調査・研究に関する支援活動を行っています。

平成27年9月には、市内の大学とJAMSTECとの間で、海洋資源や海洋環境保全に係る研究開発及び人材育成などの進展を目的とした連携・協力に関する協定が締結され、大学内にJAMSTEC連携連絡室が設置されるなど、八戸市とJAMSTECとの絆は、ますます強くなりました。

さらに、令和元年8月には、本市議会議員連盟からの声掛けにより、全国のJAMSTEC関連施設が所在する都市の市議会議員有志で構成する「我が国の海洋研究を推進する市議会議員連盟」が設立され、我が国の海洋地球科学技術の水準の向上と加盟市の発展のために、全国の海洋都市とも連携した活動を展開しています。

二つ目には、八戸圏域連携中枢都市圏形成促進議員連盟です。これは、連携中枢都市圏構想に対する理解を深めるとともに、圏域の振興・発展に資することを目的に活動しており、八戸圏域連携中枢都市圏を形成している本市及び近隣の6町1村の8市町村議会議員（全124名）で構成しています。

毎年、構成市町村議会が持ち回りで年3回程度、講演会と合わせて各首長も参加する交流会を開催し、圏域の連携・強化に努めています。



日比谷OKUROJIにオープンした「8base」

令和2年9月、当市は東京・内幸町の商業施設「日比谷OKUROJI」に八戸都市圏交流プラザ「8base」をオープンしました。ここは、八戸圏域が誇る北三陸の海の幸をはじめ、バラエティに富んだ果物や野菜、肉や乳製品、豊かな粉食文化といった、まだ知られていない圏域の魅力を、首都圏の人々にダイレクトに味わっていただく拠点（base）であり、人と人が交流し繋がってゆくことで、圏域の可能性を無限大に広げる拠点となることを目指しており、議連としても、大いに活用されることを期待するものです。

今後とも、さらなる八戸市の発展のために議員一丸となって活動に取り

り組んで参ります。（了）

【市議会最前線】 ◎ ホノルル市議会との平和交流 = 長岡市議会（新潟県）

20/10/19 08:00 NG017

長岡市議会はホノルル市議会と、あらゆる分野における両市の発展を図るため、平成26年に「交流に関する覚書」を締結し、活発な交流を続けています。

アメリカ合衆国ハワイ州ホノルル市と長岡市は、かつて敵国であり、太平洋戦争で罪のない多くの人々が犠牲になったという悲しい過去があります。真珠湾攻撃を指揮した海軍連合艦隊司令長官の山本五十六は、長岡市出身でした。

戦後60年以上の時を経て、平成24年、両市が平和交流を始め、姉妹都市提携を結びました。平成29年には、真珠湾追悼記念式典に日本から唯一招待された自治体として、長岡市が出席しています。両市が経験した悲しい過去は、姉妹都市交流を通じて、固く結ばれた友情へと変わってきていると言えるのではないのでしょうか。

近年の市議会同士の交流では、令和元年度、ホノルル市議会正副議長が8月の長岡まつりに合わせて来岡され、灯籠流しや献花を行って戦没者を追悼したほか、慰霊・復興・平和への祈りが込められた長岡花火を御覧になりました。また、長岡市議会議長が12月の真珠湾追悼記念式典に出席したり、ホノルル市が進める事業を視察するなど、平和の尊さを再確認すると同時に、相互の理解がより一層深まった一年となりました。令和2年度は新型コロナウイルスの影響で、予定していた交流が中止となってしまいましたが、終息後には再び交流をすることを手紙で約束しています。

平和な世の中が続くことは、世界中の人々が切望していることです。

戦争の痛みを知る両市議会が親睦を深め、平和への想いを共有することは大きな意義があります。今後も交流を続け、覚書にもあるように、政治をはじめ教育や文化などのあらゆる分野において両市がお互いを高め合い、発展していくことを目指します。（了）



長岡市議会議場にて 長岡・ホノルル市議会正副議長と長岡市議会各会派代表者

※本印刷物は時事通信社 iJAMPサービスから印刷されました。

Copyright JIJI PRESS Ltd. All Rights Reserved.

【市議会最前線】 ◎ 議会一丸となって市長へ当初予算要望 = 桐生市議会 (群馬県)

20/11/16 08:00 NG024

桐生市議会は、平成30年度から次年度当初予算に対する要望書を全議員の総意として桐生市長へ提出を行ってまいりました。

事の起こりは、市民意見を市政に反映させる仕組みづくりにあります。市民の皆様と「まちづくり討論会」や「議会報告会・意見交換会」などを開催し、数多くの貴重なご意見を頂戴する中、これらの市民意見を市政に反映させるため、政策研修会にて講師より頂戴したアドバイスを活かし、桐生市の現況に即した当初予算要望書を次年度の当初予算編成前に市長へ提出することとしました。

今年度も令和3年度当初予算要望を作成するにあたり、3つの常任委員会で所管事項に係る要望項目を各3項目まで絞り込み、計9項目の要望を議会の総意として取りまとめましたが、取り分け、新型コロナウイルス関連の予算の確保・充実を重点的に要望させていただきました。

収束の見えない新型コロナウイルスとの戦いの中、市内事業者等への支援や医療体制構築のための人材確保など、厳しい窮状に追い込まれた市民を守るための予算確保が最重要課題となっております。私たちには、市民の声を聴き、市民に寄り添ってきた議会として、この現場の声を市執行部まで届ける責務があるのです。

桐生市議会は、これからも市民からの負託に応え、議会及び議員としての職責を全うするため、議会一丸となって当初予算要望を続けていく所存です。(了)



荒木恵司市長（中央右）に要望書を手渡す北川久人議長（同左）ら

※本印刷物は時事通信社 iJAMPサービスから印刷されました。

Copyright JIJI PRESS Ltd. All Rights Reserved.

【市議会最前線】◎議場をユニバーサルデザインに＝大垣市議会（岐阜県）

20/12/02 08:00 NG027

令和2年1月に8階建て、免震構造や自然エネルギーの利用で災害時にもその機能を維持し続ける防災拠点であり、またICT等先端技術を活用した電子市役所構築の中核施設でもある市庁舎が供用開始され、同年第1回定例会を新しい議場で迎えました。

議場は議席フロア（7F）と傍聴席フロア（8F）に分かれ、誰もが使いやすいよう、ユニバーサルデザインの考え方を取り入れた設計となっています。

議席フロアでは、椅子を可動式とし、ゆったりと座ることができると共に、車椅子にも対応します。フロア内は移動しやすいよう段差を極力なくし、高低差のある部分は緩やかなスロープ形状としました。唯一ある議長席への段差には、電動昇降機を設置することで対応しています。さらに、演壇には昇降機能を付加し、車椅子利用者から高身長の方まで、誰もが適切な高さで登壇・使用できます。

また、議場内の装飾等には市内産ヒノキをふんだんに使用し落ち着いた雰囲気となるようにしました。正面壁には、旧市庁舎正面ホールを長年にわたり飾り、彩ってきた、本市が誇る郷土出身の芸術家、故・矢橋六郎氏のモザイク壁画を移設し、傍聴に訪れた方が目でも楽しめるようになっています。

傍聴席フロアでは、車椅子や電動カート等利用者でも使いやすいよう広いスペースを確保しました。また、赤外線ラジエーターを利用した補聴システムを導入し、難聴者の傍聴も支援しています。（了）



車椅子用傍聴席から見えるモザイク壁画



議長席への電動昇降機



赤外線ラジエーターを利用する補聴システム

【市議会最前線】◎開かれた議会を目指して＝向日市議会（京都府）

21/01/28 08:00 NH67

向日市議会では、平成29年度から動画配信サイトYouTubeを利用して、本会議や常任委員会の様子を、ライブ中継や録画映像で配信し、市民の皆様が議会に理解と関心を深めていただくような環境づくりに努めています。

また、委員協議会の中で、請願提出者の方の意見をお聞きするなど、市民の皆様の声を市政に反映させるとともに、行政の監視や政策提言など、議会としての機能を発揮し、議会改革を推し進めています。



向日市役所 新庁舎

本市では、令和3年1月に、市役所の新庁舎が開所しました。来庁された方に気軽に足を運んでいただける場を目指し、最上階の5階には、景色が一望できるレストラン（4月開業）を併設しています。

議場は、現在、3月完成に向けて、歴史ある風情を残しつつ、改修を行っています。リニューアル後には、議場横に、車いすをご利用の方も含め、市民の皆様が、本会議の様子をモニターでご覧いただける視聴室を開設します。

今後におきましても、議会だよりをはじめ、市の広報誌やホームページ、YouTubeでの映像配信などを通じて、議会についての情報提供を行い、市民の皆様に、より一層身近に感じていただける開かれた議会を目指して、取り組んでまいります。（了）



YouTubeでの映像配信

※本印刷物は時事通信社 iJAMPサービスから印刷されました。

Copyright JJI PRESS Ltd. All Rights Reserved.

【市議会最前線】 ◎すべての市民により開かれた市議会を＝福山市議会（広島県）

21/02/08 08:00 NG018

本市議会では、聴覚障がいを持つ市民の方から、「自宅でも本会議の様子を見たい」という要望を受け、平成29年9月定例会から、本会議に常時、手話通訳士を配置し、インターネット中継や庁舎内のモニターに、手話通訳を挿入した映像を配信しております。

これにより、聴覚障がいを持つ方が、自宅でも本会議の様子を見ていただけるようになりました。また、これまで本会議の手話通訳は事前予約制でしたが、常時、手話通訳士を配置することで、聴覚障がいを持つ方が、いつでも本議会を手話通訳付きで傍聴していただけるようになりました。

この取組みは、広島県内では、いち早く実施したものであり、こうした取組みに呼応するように、同年12月には、「福山市こころをつなぐ手話言語条例」が制定されました。

また、毎年開催している議会報告会においても、手話通訳や要約筆記を行っており、聴覚障がいを持つ方にも、より気軽に参加していただけるよう努めているところです。

本市議会といたしましては、引き続き、こうした市民のみなさんのご意見・ご要望をお聞きする中で、関係機関と連携し、すべての市民にとって、より開かれた市議会を目指し、必要な取組みを加速させていく所存であります。（了）



本会議を傍聴席で訳す手話通訳士（手前中央）。ネット中継では画面右上に手話通訳映像が挿入されている

※本印刷物は時事通信社 iJAMPサービスから印刷されました。

Copyright JIJI PRESS Ltd. All Rights Reserved.

【市議会最前線】 ◎ 議会の活性化を目指して = 西条市議会（愛媛県）

21/03/12 08:00 NG21

西条市議会では、平成29年に設置した議会活性化推進特別委員会での調査・研究を中心に、議会機能の強化と市民に開かれた議会を目指し、議会の活性化に取り組んできました。

とりわけ、タブレット端末の導入や運用については、若手議員によるプロジェクトチームでの議論を交えながら検討を重ねた結果、紙資源の消費抑制、コスト削減、事務の効率化などを目指し、令和2年6月定例会からタブレット端末を導入し、令和3年3月定例会から、紙資料の配付を原則行わない完全ペーパーレスによる議会運営に移行するなど、着実に取組を進めてきました。

また、大規模災害などの非常時にも議会機能を維持するよう努める必要があることから、災害時における議会及び議員の役割、組織体制や行動基準等を定めた議会独自の災害時対応指針及び業務継続計画（BCP）を策定しました。更に、コロナ禍においては、感染症や国民保護などの危機事象にも対応できるよう、全体的な見直しを行うとともに、災害時の情報伝達手段として、タブレット端末を追加し、併せて、タブレット端末を用いた安否状況の確認や災害情報の収集を行う防災訓練を実施しました。

この他、特別委員会では、議会傍聴の促進、議会報告会の開催、議会広報の充実、情報公開の推進、公聴会・参考人制度の活用など、さまざまな検討項目について、調査・研究を行い、任期の最終年度である令和2年度には、これまで積み上げてきた取組を確かなものとし、改選後の市議会に引き継ぐことを目的に、取り組んできた26の検討項目について、その成果の評価・検証を行い、報告書を作成するに至りました。



多数の市民に参加いただいた議会報告会



タブレット端末を用いた審議

令和3年2月から、本市議会は、新たな任期がスタートしましたが、前任期から引き継いだ取組の更なる充実強化を図り、よりいっそう市民の負託に応えられる議会を目指してまいります。

※本印刷物は時事通信社 iJAMPサービスから印刷されました。